



桜井市こども食堂 **みんなの食堂(さくらい)**

毎月第2土曜開催



「こんにちは～」元気な声と、はにかんだような笑顔で迎えてくれたお手伝いの高校生。奈良県立商業高校の家庭科クラブ“たまつえ”の学生さんたち。こども食堂開催時には、受付や弁当の配布そして遊び相手も担ってくれているそうです。机の上には地域の企業から寄付頂いたクッキーやパン、調味料等々（数量限定）を子育て家庭に配布されているとのこと。「おかし！やったあ!!」と袋の中をのぞいたこども。「本当に助かります。」と子育て中の保護者。



こども食堂は、少子化でこども会活動が減少してきており、こどもの社交場となる機会が減ってきたこと、そして母親たちのホッとできる場を作りたいと思ったことが、こども食堂をはじめたきっかけだそうです。子育てをしていると日々、不安や心配事も次から次へとやってきます。顔を合わせて物資やお弁当を渡す、そんな関係性を大切にしているとのこと。

「気にかけてくれる人がいると思うだけで、少しの安心感につながるんです。同じように子育てしてきた世代だから気持ちも感覚もわかるんです。だから、私たちも声をかけてもらいやすい存在でいたいんです…」と代表者は話されていました。





カウンター上にはたくさんのお弁当。
地域から寄付頂いた食材を中心に、からだ
への思いやりを込めたような安心安全弁当。
日頃忙しいと、どうしても遠のいてしまう
青菜のおひたしも存在感があります（笑）
「いつもホッとする味なんです…。」と
話す人もいました。

息子の分と2つ
お願いします。

はあ～いちょっと
待ってくださいな。



パック詰めにしているのは、それぞれの家庭の状況に合わせるため。
この日は食堂で食事をする家族・持ち帰りする家族の数は半分くらいでした。
こども食堂がきっかけとなり、地域の集まりにも代表者が参加するようになってきたとのこと。地域に根ざしてきているのが手に取るように感じました。

今回は約100食
作りました！



あとがき



取材者が食堂を後にしようとした時、入れ違いに1組の親子が来られました。
「わあ～！来てくれたん!!どうしてるかなあって気になってたよ。顔見れてよかった！」とスタッフ。「食堂が開くの楽しみに待ってた」と保護者。月1回開催することも食堂での言葉かけが“つながり”を紡いでいくんだなと温かい気持ちになりました。“たまつえ”の学生さんたちは高校から一番近いということで毎回手伝いに来てくれているとのこと。高校生がボランティアをしてくれることで利用しやすさを感じる年代もいるんだろうと思います。老いも若きも男も女も、どんな年代もつながって生きていくって大切なことですね。

